

科目名 Subject Name		開講年次	開講学期	曜日・時限
ピアノ演奏法Ⅲ Piano performance method III		2年	前期	金曜日・2時限、3時限、4時限
単位数	授業の形態		授業の性格	
1単位	演習		選択 (保育士養成課程選択必修)	
当該科目の理解を促すために受講することが望まれる科目				
音楽表現Ⅰ 音楽表現Ⅱ ピアノ演奏法Ⅰ ピアノ演奏法Ⅱ				
同時に履修しておくことが望まれる科目				
教職課程(幼稚園教諭二種)、保育士資格取得に必要な科目				
担当者に関する情報				
氏名		研究室の場所	オフィスアワー	電話番号・メールアドレス
岡原志のぶ 石塚科之 メンサー肇子 藤野理恵子 中沢光恵 西尾幸子		本館3階 講義棟1階	月・水・木・金	授業中に指示します
授業の概要				
音楽的体験は、子どもの感性に直接働きかけることであり、子どもが音楽に親しみ、うたを歌ったり楽器を演奏したりして音楽の楽しみを味わえるかどうかは、保育者の感性と音楽能力に保ってくる。この授業は、色々な観点から音楽を体験し、特にこの時期(6月)の教育実習での音楽的実践を目指して、保育の場に適用するピアノ技術と音楽性を身につけられるよう個人指導と弾き歌いの実践をする。				
授業の到達目標				
①音楽に対する興味、関心を高めて、音楽活動に積極的に取り組む姿勢を身につけることができるようにする。 ②子どもの適した音楽を体験させる能力を身につけ、子どものうたのレパートリーを増やし、自分の力で伴奏法の習得をできるようにする。 ③子どもたちと一緒にうたを歌えるよう伴奏だけに捉われず、歌いながらピアノ伴奏をすることができるようにする。				
授業の方法				
この授業では、担当教員ごとにピアノ技術の習熟度別のクラス分けをし、基本としては個人レッスンとするが、弾き歌いの実践についてはグループ演習とする。指導の際には、各学生の能力に応じた指導を行うため、授業内容は各学生によって異なり、以下には標準的な授業計画を示すこととする。				
学習の成果				
①音楽活動に積極的に取り組み、子どもの音楽的体験を提供することができる。 ②子どものうたのレパートリーを増やすことができ、楽譜通りに演奏(または、簡単な伴奏)することができる。また、初心者でもバイエルを終了した後、ブルグミュラー25の練習曲より3曲以上弾くことができる。 ③教育実習の際には、子どもたちの前でうたの伴奏や弾き歌いをし、保育者として音楽的な指導をすることができる。				
授業のスケジュールと内容				
第1回目	全体オリエンテーション：授業概要、評価方法の説明、受講する際の注意 担当者別：各自の教材の選定と課題			
第2回目	教育実習での課題曲伴奏と演奏法①(実習先からの課題の指導)			
第3回目	教育実習での課題曲伴奏と演奏法②(季節のうた)			
第4回目	教育実習での課題曲伴奏と演奏法③(行事のうた)			
第5回目	グループ別による弾き歌いの実践－教育実習からの課題－①			
第6回目	グループ別による弾き歌いの実践－教育実習からの課題－②			

第7回目	ブルグミュラー25の練習曲(アラベスク、無邪気)程度①		
第8回目	ブルグミュラー25の練習曲(アラベスク、無邪気)程度②		
第9回目	ブルグミュラー25の練習曲(優美、やさしい花)程度①		
第10回目	ブルグミュラー25の練習曲(優美、やさしい花)程度②		
第11回目	音楽実技試験課題曲の指導① 自由曲		
第12回目	音楽実技試験課題曲の指導② 自由曲		
第13回目	音楽実技試験課題曲の指導③ 自由曲		
第14回目	実技試験(各自発表)		
第15回目	試験曲の講評とこれからの課題(各自)		
成績評価の方法と基準			
	評価の領域	割合	評価の基準
授業参加態度		30%	毎回、与えられた課題を練習して授業に臨んでいる。また、授業内での(レッスン)による理解度についても評価する。
レポート			
調査報告書			
小テスト			
中間・学期末試験			
発表内容(態度含む)		60%	担当教員全員の前で1曲演奏し、曲の難易度と表現力で採点する。各担当教員が全ての学生の演奏を採点し、その平均点を評価とする。
その他		10%	曲の進度による評価をする。
教科書と参考図書			
テキスト：進度に応じてブルグミュラー25の練習曲、ソナチネ、ソナタ(全音楽譜出版社)、その他(教育実習先からの課題曲)			
履修上の心得・ルール			
毎回、教育実習先からの課題か個人に適した曲が課題となり、次回の授業で担当教員にレッスンを受ける。			